

外国語（英語）科学習指導案

安浦町立安浦中学校

指導者 山下三枝子（基礎）

村山 朋子（発展）

- 1 学年・学級・コース 1年2組 計34名
基礎コース 19名
発展コース 15名
- 2 単元（題材）名 Lesson 6 インターネットでオーストラリアへ
Australia on the Internet
「Total English 1」学校図書

3 単元（題材）について

(1)単元（題材）観

この単元では三人称複数が新たに導入され、人称代名詞 they が使えるようになる。they は生徒にとって難しい代名詞の1つである。特に、they に相当する日本語が存在しないという点が、指導する側にも学習する側にも障害となる。このような場合には、they が指し得る内容を一度にすべてを理解させようとはせず、段階を追って理解させたい。さらに、一人称複数 we が導入される。これで、基本的な人称代名詞をすべて学習したことになる。したがって、表現の幅が広がったのは事実であるが、一方で、生徒への負担も大きくなっていることは留意しなければならない。また、who や what を使った疑問文の学習を行う。

(2)生徒観

第1学年におけるつきたい力

第1学年では、英語を初めて学習することに配慮し、コミュニケーションに対する積極的な態度の育成を重視したい。主に現在形を使って身近な身の回りの出来事や自分の気持ちを表現できるようにさせたい。（身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りのできごとなどの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げたい。）

授業の中で、一斉に大きな声で発音練習をすること、ゲーム的要素を持つ言語活動（インタビューゲームなど）を行うこと、ALTの話す内容をしっかりと聞こうとすることなどは、積極的に行う。特に、班活動においては、協力しながら答えを導き出そう、発表をしようとする姿勢が見られる。

一方、あいさつや1～2語の単語を使っての受け答えなど、簡単な会話はできても、人前で話す機会が少ないため、また、自分の発音に自信がない、語彙力が豊富でないことなどから、自分の考えや意見を文章で発表する力が十分に身につけていない生徒もいる。中には英語を聞いて内容を理解したり、会話で簡単な受け答えができるのに、定期テストで思うように得点がとれないため、苦手意識を持ったり、自信を失う生徒もいる。これは、英語を書いたり、読んだりする力が十分に身につけていないことが、原因のひとつと考えられる。毎日の学習の中で、既習の単語をノートに繰り返し練習して覚えること、本文を音読することの大切さを伝えている

つもりだが、定着にまでいたっていない。しかしながら全体的に学習にのぞむ姿勢は意欲的である。

A L T の授業を心待ちにしている生徒も多く、A L T を通して英語学習や、異なる文化・考え方などを知ることを楽しみにし、授業や授業以外の活動を通して、英語でコミュニケーションがとれることの喜びを体験したり、A L T の出身国をより身近なものに感じたり、彼らが外国語として日本語を学んだり、日本文化を学ぼうとする姿勢をみて、生徒たちの英語学習の動機づけにもなっている。さらに、英語暗唱大会にすすんで出場する生徒、英語検定合格を目標に学習を行う生徒、英語で日記を書こうとする生徒など授業以外にも積極的に英語を使おうとしている実態がある。こういった様々な興味・関心を大切にしながら、学習したことが生かせるような英語の授業をすすめていきたい。

(3) 指導観

少人数習熟度別指導の工夫

本単元では、言語材料として1人称、3人称の複数形、Who is this? What is this? の疑問文が扱われている。その基本的な用法や働きを理解させるとともに、相手の質問に的確に回答したり、説明したりすることができるようにさせたい。また、少人数という利点を生かして、英語を使っての少人数グループ、ペア活動やインタビュー活動など話す活動を増やし、できるだけ授業中に全員が発表できる機会を作りたい。そして、授業に対して積極的に取り組むクラスの雰囲気を大切に、対話活動を通して英語に対する理解を深め、使ってみようという意欲をもたせたい。

【基礎コース】

丁寧な個別指導を行うことによって、一人一人が意欲的に学習に取り組む姿勢を育てる。リスニング、スピーキングを中心に基本文の理解と簡単な自己表現ができ、本文の概要をつかむことができるようにする。主に音声を重視した活動を展開し、生徒に自信を持たせ、自己表現で学習意欲を喚起させるようにしたい。

【発展コース】

基本的な内容を理解させ、主体的に問題に取り組む姿勢をドリル練習の指導をしていくことで育てる。学習した表現を使って、様々な表現を理解しようとする姿勢をつくる。例えば、スピーキングではさまざまな場面を想定し、それぞれの場面にふさわしい表現をさせてみたり、新出語彙についても他の用法にまで触れたりするなど、生徒の実態に応じて発展的内容にまで触れるようにする。

「書く」ことを効果的に取り入れた授業展開の工夫

単語や基本文、本文などの小テストを継続的に実施し、単語や基本文の定着を図る。また、学習した表現を使用し、生徒が自分や自分の周りに置き換えてオリジナルの英文を作ることにより、表現力をつける。

4 単元（題材）の目標と評価規準

(1) 目標

複数名詞が主語の文や代名詞の便利さを理解し、内容を読み取ることができる。

Who, What で始まる疑問文とその答え方を理解し、相手に質問したり、その質問に答えたりすることができる。

【学習指導要領 (1) 言語活動アイウエ (3) 言語材料エ(ア)d,(ウ)a】

(2) 評価規準

	ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化に ついての 知識・理解
聞く こと	(コミュニケーションの継続) 理解できなくても、 推測するなどして 聞き続ける。			(言語についての知識) 人称代名詞や who, what について の知識がある。
話す こと	(言語活動の取組) 間違いを恐れず に、積極的に英語 を使っている。	(適切な発話) who, what を用い て、聞かれたこと に対して適切に 応答することが できる。		
読む こと		(適切な発話) インターネットで ホームページを 見ている状況の 内容を感情豊 かに音読が できる。	(正確さ) 書かれた内容 について正しく 読みとることが できる。	(文化についての理解) オーストラリア の代表的観光地 の Ayers Rock と情報獲得の インターネット の便利さを知る。
書く こと		(適切な筆記) 伝えたい内容 によって語句 や表現、文章 形式を選択し、 書くことが できる。		(言語についての知識) 文構造について の知識がある。

5 指導と評価の計画 (全7時間)

次	学習内容 (時数)	評価の観点					評価規準	評価方法
		関心	表現	理解	知識			
1	6 A 【共通】 インターネットで ・新出単語確認 ・本文の内容理解 ・本文の音読					ウ 複数名詞が主語の文 を読みとる。代名詞 の便利さを理解し ながら、内容につ いて正しく読みと ることができる。	観察	
	【基礎コース】 ・音読練習 ・T or F 【発展コース】 ・音読活動 ・Q & A					ア 理解できないと ころがあっても、 推測するなどして 聞き続ける。 エ 人称代名詞につ いての知識があ る。	ワークシート	
2	6 B (本時) 友達のホームページ 【基礎コース】 ・グループ活動 「この人はだれ？」 【発展コース】					イ Who で始まる疑問文 を用いて、誰の説 明をしているかを 聞き、答えること ができる。 ア 間違いを恐れず に、積極的に英語 を使っている。	観察 ワークシート	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア活動 「当てっこゲーム」 				イ Who is he?を用いて、 語句や表現、文章形式を選択し、書くことができる。	
	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語確認 ・本文の内容理解 ・本文の音読 ・Q & A 				イ 絵や文字からの情報を活用して、メッセージの内容を的確に読みとり、感情豊かに音読することができる。	観察
3	<p>6 C エアーズ・ロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Whatで始まる疑問文とその答え方 <p>【基礎コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ対抗も の当てゲーム <p>【発展コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話活動 (フードファイト/ フルーツファイト) 				イ Whatで始まる疑問文を用いて、相手に質問をしたり、説明したりすることができる。 ア 間違いを恐れずに、積極的に英語を使っている。 イ What is this?を用いて、語句や表現、文章形式を選択し、書くことができる。	ワークシート 観察
	<p>【共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新出単語確認 ・本文の内容理解 ・本文の音読 ・Q & A 				エ オーストラリアの代表的観光地の Ayers Rock と情報獲得のインターネットの便利さを知る。 ウ Ayers Rock についての情報を対話文を通して読み取ることができる。	観察
4	<p>【共通】 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現形式確認 ・インタビュー活動 				ア インタビュー活動やランキング表作りに意欲的に参加し、英語による表現力を高めることができる。 エ 文構造についての知識がある。	観察 ワークシート

単語テスト・単元のまとめのテストを後日実施。

6 本時の展開【基礎コース】

(1) 本時の目標

Who を用いて，友達に尋ねたり，聞かれたことに対して適切に表現することができる。
間違いを恐れずに，積極的に英語を使う。

(2) 観点別評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・間違いを恐れずに，積極的に英語を使っている。(ア)

表現の能力

・Who で始まる疑問文とその答え方を知り，聞かれたことに対して適切に応答することができる。(イ)

・Who is he/she?を用いて，語句や表現，文章形式を選択し，書くことができる。
(イ)

(3) 準備物

ピクチャーカード，カード，ワークシート，CDプレーヤー，辞書

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
あいさつ 単語テスト Warm-up	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に7割を予告。 ・簡単な英語でのやり取りを通して，英語のリズムに慣れさせる。 		単語テスト
<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見ながら内容を聞き取る。 ・基本文の確認 ・音読練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取ることで，人物を想像させる。 This is a man. He is from Japan. He lives in America. He is a great baseball player. ... Who is he? ・ピクチャーカードで答えを提示する。 ・Who で始まる疑問文とその答え方を理解させる。 ・黒板にカードを貼り，基本文型を確認し，本時のねらいをつかませる。 ・ピクチャーカードを見せ， Who is he? / Who is she? とひとりずつにたずねて， She is ~ / He is ~ を使って，答えさせる。 ・しっかり声を出させる。 ・教科書で基本文の音読練習をする。 Who is that girl? -That's my friend, Cindy. ・this, that について確認させる。 	<p>イ Who で始まる疑問文とその答え方を知り，聞かれたことに対して適切に応答することができる。</p>	観察
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク「この人はだれ？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・5グループにわかれ，グループごとに先生，有名人などについてのピクチャー 	<p>ア 間違いを恐れずに，積極的に英語を使っている。</p>	観察

	<p>カードを一人に2枚ずつ配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで Who is this man (he)? Who is this woman(she)? Who is this boy (he)? Who is this girl(she)? <p>を使って尋ねさせ、その絵を見て He is ~ / She is ~ と応答させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ時計回りにカードをグループのメンバーに提示させて、一回りしたら、カードを隣の人へ渡し、時間いっぱい繰り返し応答練習をさせる。 ・英語を積極的に使うよう支援する。 ・教師の提示するピクチャーカードで応答をさせ、定着を確認する。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ... クイズを作ろう ・家庭学習の指示と次の時間の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでいくつかのクイズを作るよう指示し、ヒントとなる情報を三つに絞らせ、英文で書かせる。 ・辞書を使用し、書かせることにより確実な定着を図る。 ・使用する動詞を限定する。 {is, play(s), like(s), live(s)} ・困っている生徒に対して支援する。 ・少人数を生かし、丁寧な個別指導をする。 	<p>イ Who is he?を用いて、語句や表現、文章形式を選択し、書くことができる。</p>	<p>ワークシート</p>

6 本時の展開【発展コース】

(3) 準備物

ピクチャーカード、カード、インタビューカード、ワークシート、辞書

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
<p>あいさつ Warm-up 単語テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語でのやり取りを通して、英語のリズムに慣れさせる。 ・毎回、単語や基本文のテストを行い、定着を図る。 		<p>単語テスト</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見ながら内容を聞き取る。 ・基本文の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を見て、人物を想像させる。 ・Whoで始まる疑問文とその答え方を理解させ、本時 	<p>イ Whoで始まる疑問文とその答え方を知</p>	<p>観察</p>

<p>・当てっこゲーム</p>	<p>のねらいをつかませる。 ・黒板にピクチャーカードをはり，基本文型を知り，本時のねらいをつかませる。 ・写真を用い，生徒に「Who is he / she?」と質問に対し，「She is ~ / He is ~」と答えさせる。 ・カードを配布し，その中の一人を選ばせ，英文で話せるよう練習させる。 ・ルールの説明を行い，じゃんけんで負けた方がカードの内容をもとに相手に She is tall. Who is she? と一つだけヒントを言わせ，誰を選んだか当てっこゲームをさせる。 ・ペア練習をおこなった上で，一斉にゲームを開始する。 ・困っている生徒に対して支援する。 ・自分で作った文章をもとにみんなの前にて人物を当てさせる。</p>	<p>り，聞かれたことに対して適切に応答することができる。 ア 間違いを恐れずに，積極的に英語を使っている。</p>	<p>観察</p>
<p>・まとめ ... クイズを作ろう ・家庭学習の指示と次の時間の予告</p>	<p>・辞書を使用し，一人ずつ書かせることにより確実な定着を図る。 ・少人数を生かし，丁寧な個別指導をする。</p>	<p>イ Who is he?を用いて，語句や表現，文章形式を選択し，書くことができる。</p>	<p>ワークシート</p>